

平成18年度 定期作況報告

(9月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

I 気象概況

8月下旬：平均気温は平年より2.6℃高く、降水量は平年比21%、日照時間は平年比104%であり、高温・少雨に経過した。

9月上旬：平均気温は平年より0.3℃高く、降水量は平年比137%、日照時間は平年比99%であり、多雨に経過した。

9月中旬：平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年比23%、日照時間は平年比128%で、少雨・多照に経過した。なお、9月20日に台風13号が接近し、強風が吹いた。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より1.2℃高く、降水量は平年比49%、日照時間は平年比110%であり、高温・少雨・多照に経過した。

8月下旬～9月中旬気象表

項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.6	24.4	2.2	23.7	23.6	0.1	22.6	21.4	1.2	24.4	23.2	1.2
最低気温(℃)	19.4	16.4	3.0	15.5	14.9	0.6	12.5	12.9	△ 0.4	16.0	14.8	1.2
平均気温(℃)	23.0	20.4	2.6	19.6	19.3	0.3	17.6	17.2	0.4	20.2	19.0	1.2
降水量(mm)	14.0	66.2	△ 52.2	47.0	34.9	12.1	10.0	44.3	△ 34.3	71.0	145.4	△ 74.4
日照時間(hr)	56.4	54.1	2.3	54.1	54.7	△ 0.6	61.6	48.1	13.5	172.1	156.9	15.2

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成7年～16年10ヶ年平均値を農試が算出し使用。

最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

II 作況

水稻 作況：平年並

事由：9月20日に台風13号が接近し、強風に見舞われた。その結果、試験区の一部でなびいたものの被害程度は小さかった。好天により登熟は順調に進んだものの、生育はやや遅れ、成熟期は9月20日以降の見込みである。

成熟期の稈長は「きらら397」「ほしのゆめ」共に平年より長く、穂長は「きらら397」で平年より長かった。「きらら397」では穂数は平年より7%少なかったが、一穂粒数が11%多かったため、m²当総粒数は4%多かった。稔実歩合は3.6ポイント低かった。「ほしのゆめ」では穂数は8%多く、一穂粒数は平年並であったため、m²当粒数は8%多かった。稔実歩合は3%低かった。

以上、m²当たりの稔実粒数は平年並からやや多く、現在の作況は「平年並」である。

品種名	栽培方法	稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	中苗紙筒	66.7	62.5	4.2	17.1	16.3	0.8	629	674	△ 45
ほしのゆめ	中苗紙筒	69.0	66.0	3.0	16.2	16.0	0.2	748	695	53
ななつぼし	中苗紙筒	70.2	-	-	17.2	-	-	671	-	-

品種名	栽培方法	一穂粒数(粒)			m ² 当総粒数(百粒)			稔実歩合(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	中苗紙筒	53.9	48.5	5.4	339	325	14	82.2	85.8	△ 3.6
ほしのゆめ	中苗紙筒	45.8	46.0	△ 0.2	343	317	26	86.2	89.2	△ 3.0
ななつぼし	中苗紙筒	64.8	-	-	435	-	-	79.6	-	-

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均

注2) 本年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注3) 耕種概要

土 壤：細粒グライ土
 施 肥：高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1,500kg/10a
 播 種 量：中苗紙筒=180cc/箱 成苗ポット=35g/箱 移植方法：手植え
 栽 植 密 度：30×13.3cm 25株/m² 4本植え 反 復：2

畑作の部

畑作科(長沼町)

I 気象概況

8月下旬：気温は前期に引き続き最高気温および最低気温ともかなり高く推移した。降水量は平年よりやや少なく、降水日数および日照時間はほぼ平年並みであった。

9月上旬：気温、降水量、降水日数および日照時間のいずれも平年並みに推移した。

9月中旬：気温は、最高気温がやや高く、最低気温がやや低く推移した。降水量は平年のほぼ半分以下と少なく、日照時間は平年よりやや多かった。

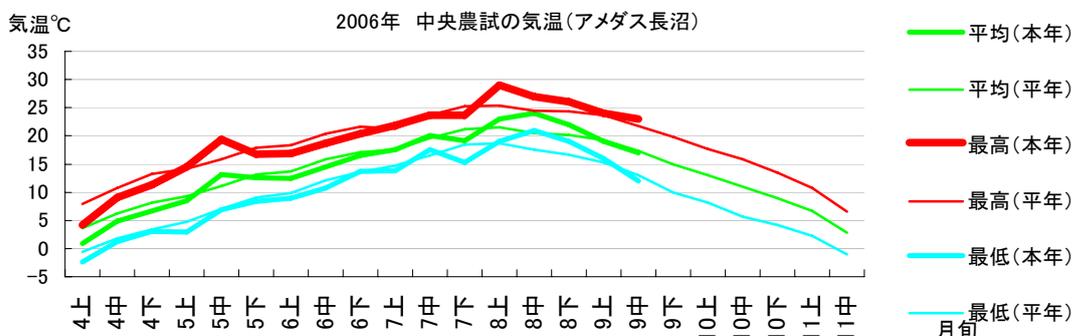
以上、1ヶ月を通じて、気温は高く、降水量は平年の約半分以下と少なく、日照時間は平年より多かった。

8月下旬～9月中旬気象表

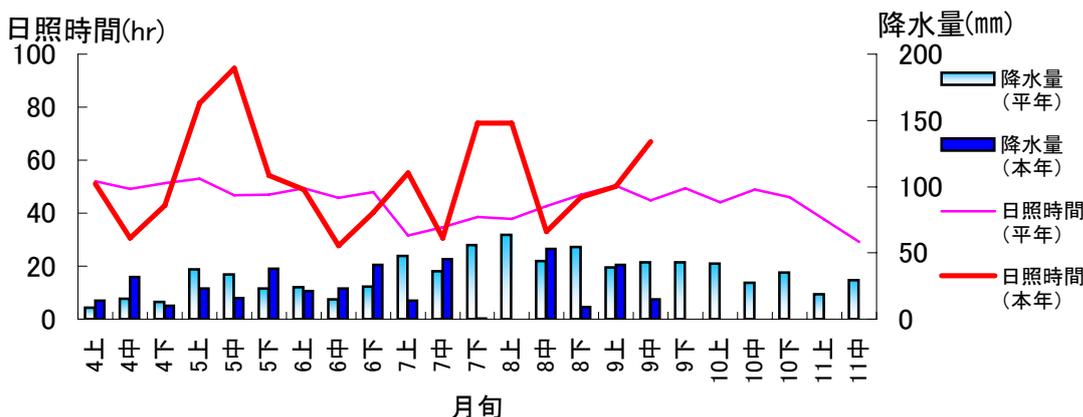
項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(°C)	22.2	20.1	2.1	19.4	19.2	0.2	17.1	17.3	△0.2	19.6	18.9	0.7
最高気温(°C)	26.0	24.3	1.7	23.7	23.7	0.0	22.6	21.7	0.9	24.1	23.2	0.9
最低気温(°C)	19.4	16.6	2.8	15.5	15.3	0.2	11.9	13.0	△1.1	15.6	15.0	0.6
降水量(mm)	9.0	54.3	△45.3	41.0	38.9	2.1	15.0	43.0	△28.0	65.0	136.2	△71.2
降水日数(日)	5.0	4.6	0.4	4.0	3.6	0.4	3.0	3.7	△0.7	12.0	11.9	0.1
日照時間(hr)	45.6	47.1	△1.5	49.7	50.3	△0.6	66.7	44.7	22.0	162.0	142.1	19.9

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成8年～17年の確定値を10年間農試で平均し、本年値は平成18年の確定値を用いた。

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。



2006年 中央農試の日照時間と降水量(アメダス長沼)



Ⅱ 作況

1. 秋まき小麦(平成18年播種) 作況：やや不良

事由：台風13号の影響による降雨のため、播種は平年より7日遅い9月21日である。
 以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名	播種期(月.日)			出芽期(月.日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホクシン	9.21	9.14	7	—	9.20	—
ホロシリコムギ	9.21	9.14	7	—	9.20	—

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均(各収穫年度)。

2. 大豆 作況：平年並

事由：8月下旬は前期に引き続き高温・少雨に経過し、その後はほぼ平年並みに経過したことから登熟は順調に進んでいる。中生の「ツルムスメ」では前期の干ばつの影響により着莢数が平年を9%下回ったが、晩生の「ユウヅル」ではその後の降雨と好天により着莢数は平年を8%上回った。
 以上により、現在の作況は平年並である。

品種名	主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)			着莢数(莢/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	57.5	56.3	1.2	12.8	12.3	0.5	6.9	6.4	0.5	48.5	53.4	△ 4.9
ユウヅル	69.8	83.8	△ 14.0	15.9	15.6	0.3	5.9	4.4	1.5	60.0	55.6	4.4
トヨムスメ(参考)	60.2	61.7	△ 1.5	11.0	10.1	0.9	5.5	6.5	△ 1.0	54.8	70.1	△ 15.3
スズマル(参考)	66.5	72.6	△ 6.1	14.8	14.2	0.6	11.7	10.5	1.2	119.1	124.7	△ 5.6

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

ただし、トヨムスメ、スズマルは、前4か年の平均を平年とし参考値を示す。

3. 小豆 作況：不良

事由：前月に続き気温がかなり高く推移したため、成熟期は平年より5日早かった。一莢内粒数は平年並であったが、着莢数は開花後の高温干ばつによる着莢障害のため平年を大きく下回った。
 以上により、現在の作況は不良である。

品種名	成熟期(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウズ	9.03	9.08	△ 5	44	62	-18	12.7	13.0	△ 0.3	4.4	4.0	0.4

品種名	着莢数(莢/株)			一莢内粒数(粒)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリモショウズ	35.5	50.0	△ 14.5	6.00	6	0.00

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年平均。

4. ばれいしょ 作況：不良

事由：8月以降は高温に経過したものの、それまでの生育の遅れのため枯凋期は平年より5日遅れた。7月下旬以降8月中旬まで極端な早魃状態に経過したため、塊茎の肥大が進まないまま枯凋期に達し、中以上いも重は平年並みで、でん粉価は高かったものの、上いも1個重、上いも数とも平年よりやや低く、上いも重は平年をかなり下回った。
 以上により、本年の作況は不良である。

品種名	枯凋期(月.日)			上いも数(個/株)			上いも一個重(g)			でん粉価(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	8.24	8.19	5	12.2	13.0	-0.8	72	77	△5	18.6	14.6	4.0

品種名	上いも重(kg/10a)				中以上いも重(kg/10a)			
	本年	平年	比較	平年対比(%)	本年	平年	比較	平年対比(%)
男爵薯	3,898	4,383	△485	89	2,919	2,922	△3	100

注) 平年値は前7か年中、平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g以上、「中以上いも」は61g以上のいもである。

5. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。